

高知県梼原町の保健医療

梼原町 西村みずえ

梼原町



梼原町

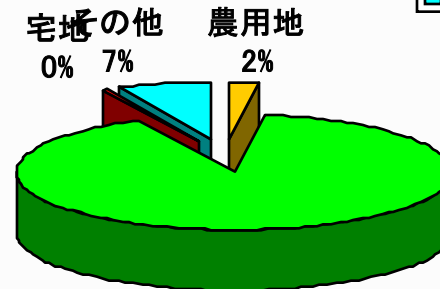
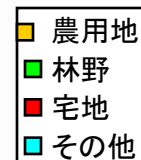
町中心
標高410m
降雪もある

人口: 4,625

高齢化率: 36%

(H17国政調査)

土地利用



面積: 236.5km² 林野 91%

雲の上の町ゆすはら振興計画
森林と水の文化構想の3本柱

健康の里づくり

- ① 笑顔あふれる健康のまちづくり
- ② 生きがいの輪を広げる福祉のまちづくり

教育の里づくり

- ① 自ら学ぶ心豊かな人づくり
- ② 森林（もり）と水を生かした交流づくり
- ③ 歴史が香る文化のまちづくり

環境の里づくり

- ① 自然と共生する環境づくり
- ② 持続可能な産業づくり
- ③ 新世紀を拓く基盤づくり

梶原町の保健医療福祉の歴史

- 昭和46年に無医地区を経験・医師確保苦勞の歴史があり、行政と町民の思い
 - ◎安定的な医療確保の必要性
 - ◎疾病予防、健康づくりの必要性
- 健康文化の里づくり推進員制度など住民参加の健康づくり
- 自治医大卒業生・昭和57年着任
 - 高い町内医療機関の住民利用率
- 福祉サービス市町村へ移譲 平成5年
 - 保健・医療・福祉を一体とした
 - 地域包括ケアシステムの必要性
- そして梶原病院、保健福祉支援センター建設へ
- 介護保険法・障害者自立支援法の施行で必要度増。



安定した医師
の確保

保健・医療連
携

住民参加の健康づくり

合計延
1188
人

S52～S63
1期生～6期生
436人

H1～H8
7期生～10期生
302人

H9～
11期生～15期生
450人

2次予防
受診率
の向上に
効果

地域支
え合い

保健衛生推進員

健診中心の
健康づくり活動

健康ふれあい推進員

健康づくりと福祉活動

健康文化の
里づくり推進員

健康づくり（一、〇次予防）
地域支えあい活動

住民主導の
生涯現役社会を

長い歴史の中でマンネリの現実も否めない。本当の住民主導へ改革進行中（17期生75人）

保健福祉支援センター & 栲原病院

これが、保健・医療・福祉を
統合した**保健福祉支援センター**
& **栲原病院**です。H7, 8

こっちが保健福祉支援セ
ンター
高齢者生活支援ハウス
2階部分

玄関は共通

右半分が病院
30床

保健福祉支援C
組織機構図

ゼネラルマネージャー
(兼) 病院長

保健医療福祉サー
ビスを総合的・一
体的に提供

センター長
(兼) 事務長

保健福祉支援センター参事
(兼) 地域包括支援センター所長

栲原病院

福
祉
係

介
護
保
険
係

地
域
包
括
支
援
C

健
康
増
進
係

保
健
指
導
係

医
療
保
険
係

四
万
川
診
療
所

松
原
診
療
所

歯
科
診
療
所

同じ屋根の下になって

・予想以上にだった

・距離がなくなる・・・町民は一度に手続きが済む。ついでに相談できる。ついでに手続き。

・連携がよくなることで・・・保健、医療、福祉サービスの間に隙間（時間、サービス間）が少なくなる。・・・町民の安心

いっしょにやっている事業

- ・ 予防接種
- ・ 糖尿病教室など講座
- ・ 特定健診・ガン検診事業
- ・ すこやか健診
- ・ 小児健診
- ・ 産業保健
- ・ あゆみの会

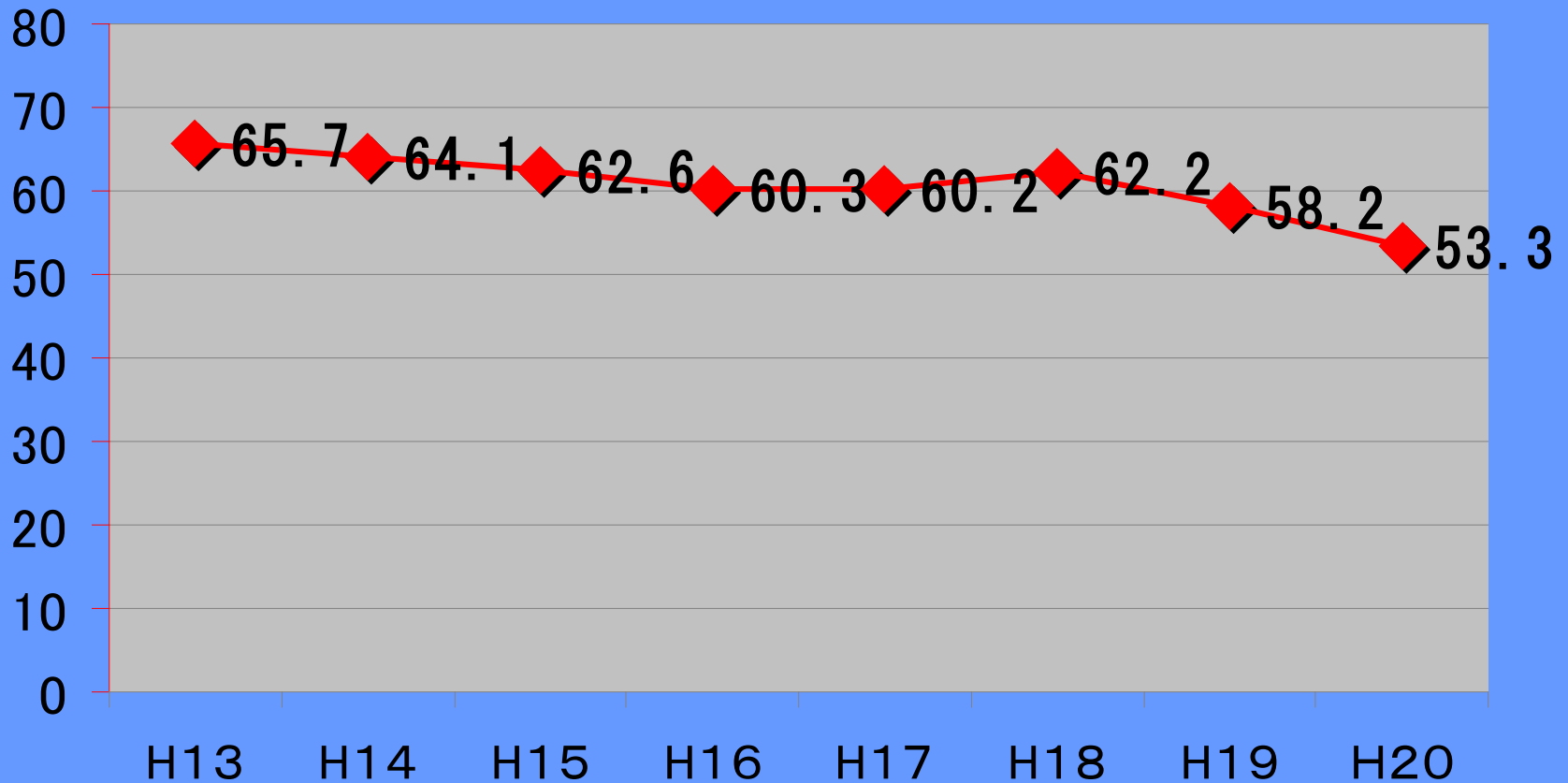
- ・ 地域ケア会議
- ・ ケアカンファレンス
- ・ サービス担当者会
- ・ 訪問

そしてなにより、情報交換が日常のことになっていること。

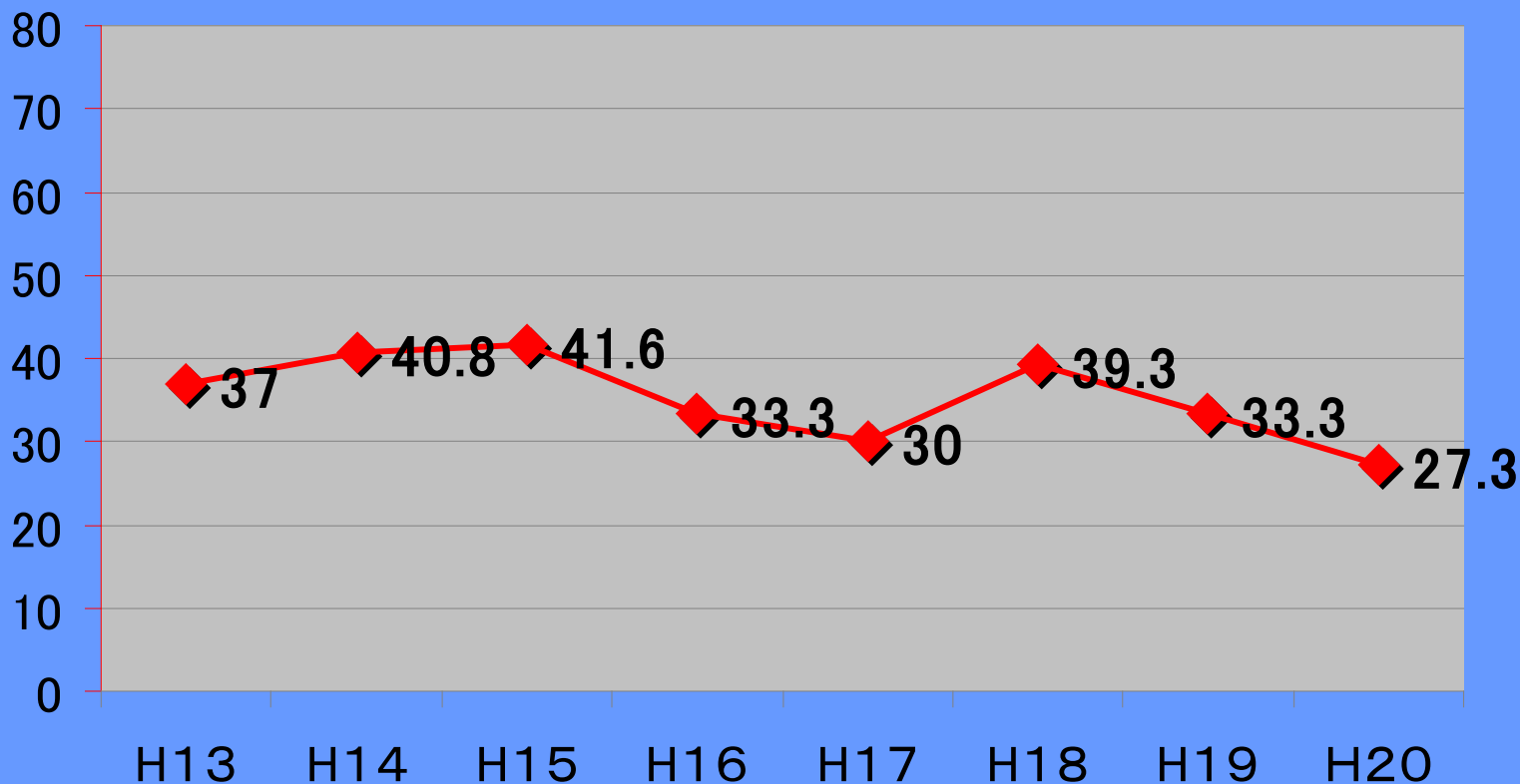
橿原病院が自治体病院として地域医療を担う上で重視していること

- ① 良質なプライマリケア
- ② 1.5次救急医療
- ③ 保健予防活動

外来における町内医療機関の 占有率(国保件数)



入院における痔原病院の占有率 (国保件数)

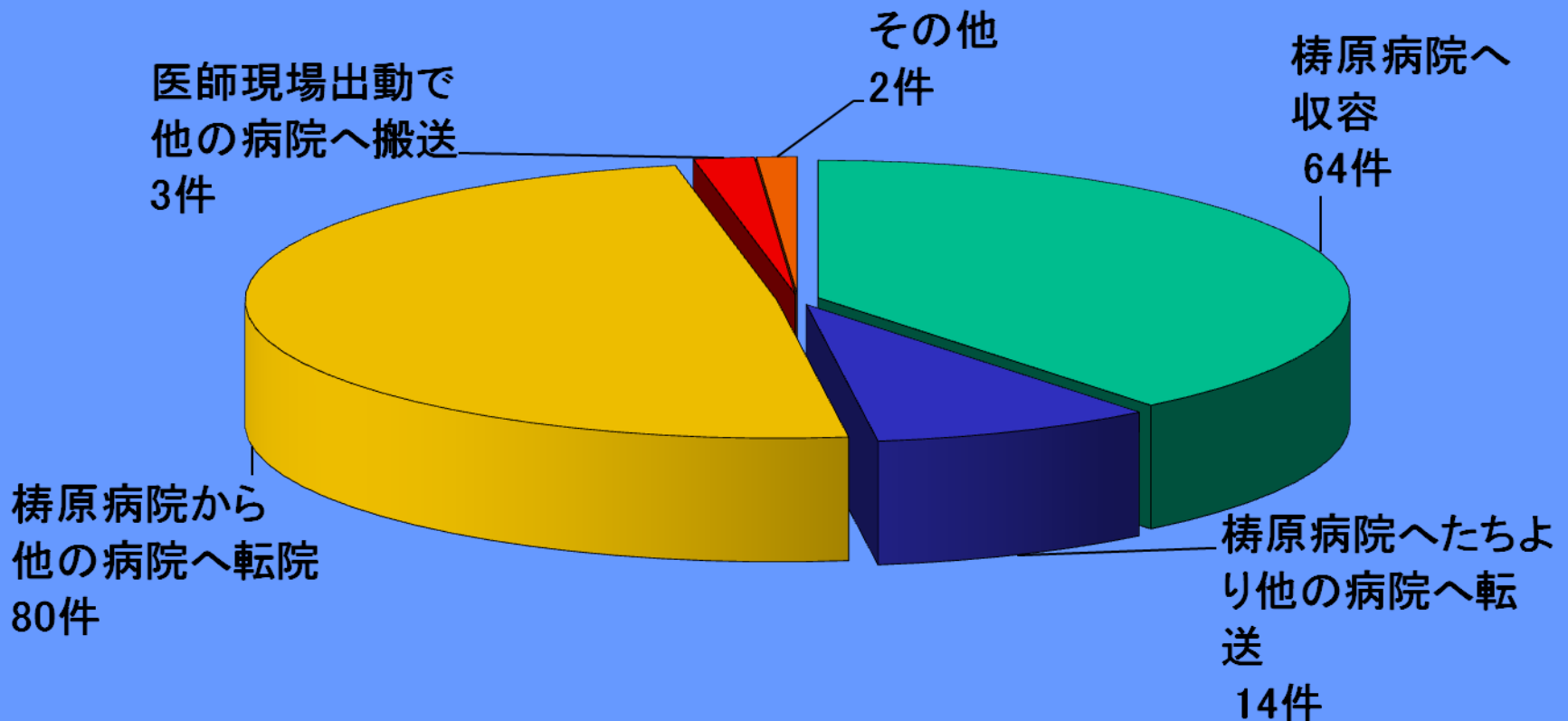


救急搬送の状況

99パーセントは栲原病院が関与している

栲原町内への救急出動=171件(不搬送8件)

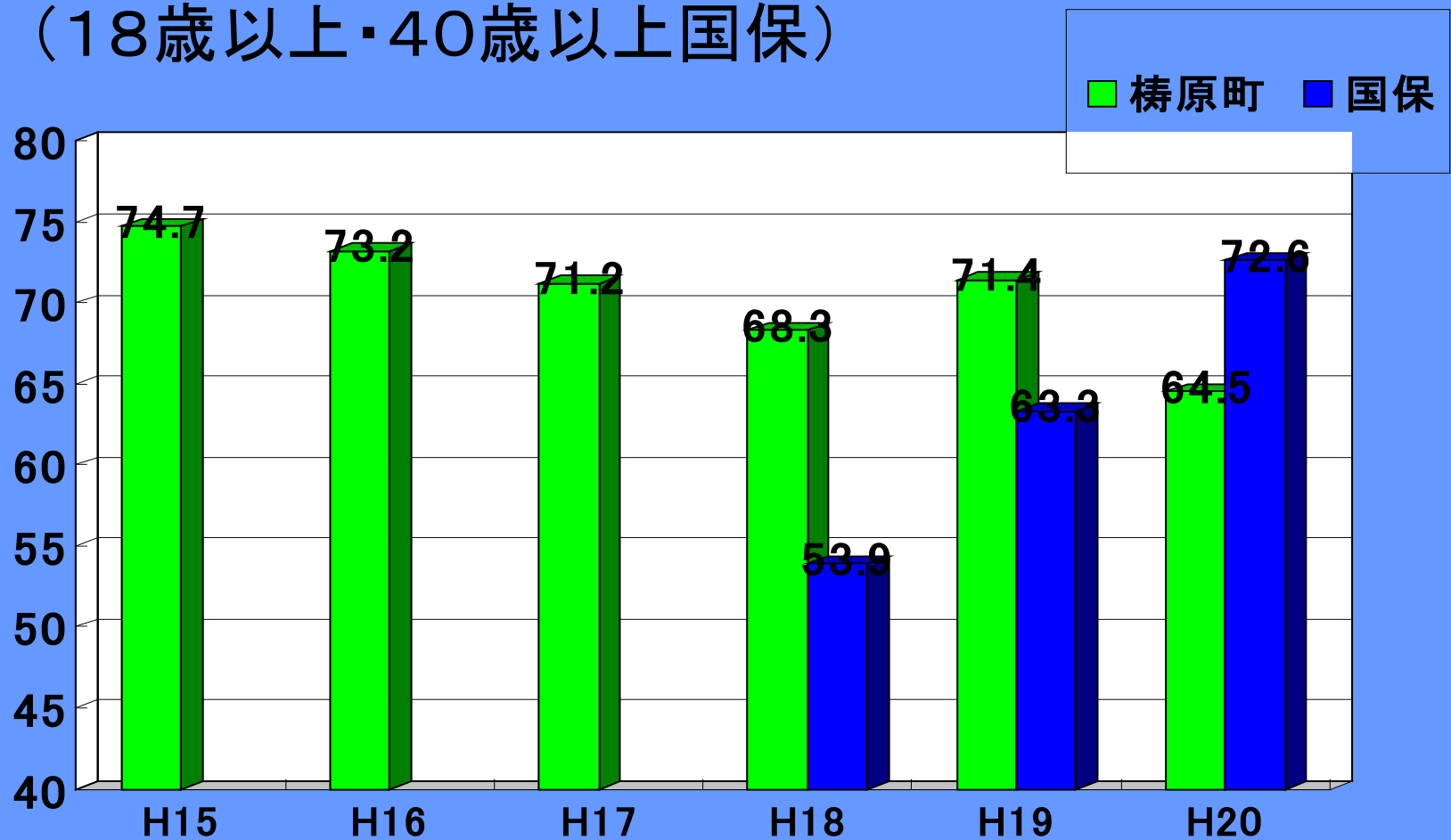
搬送件数=163件 (内162件栲原病院関与)



基本健康審査受診率

(18歳以上・40歳以上国保)

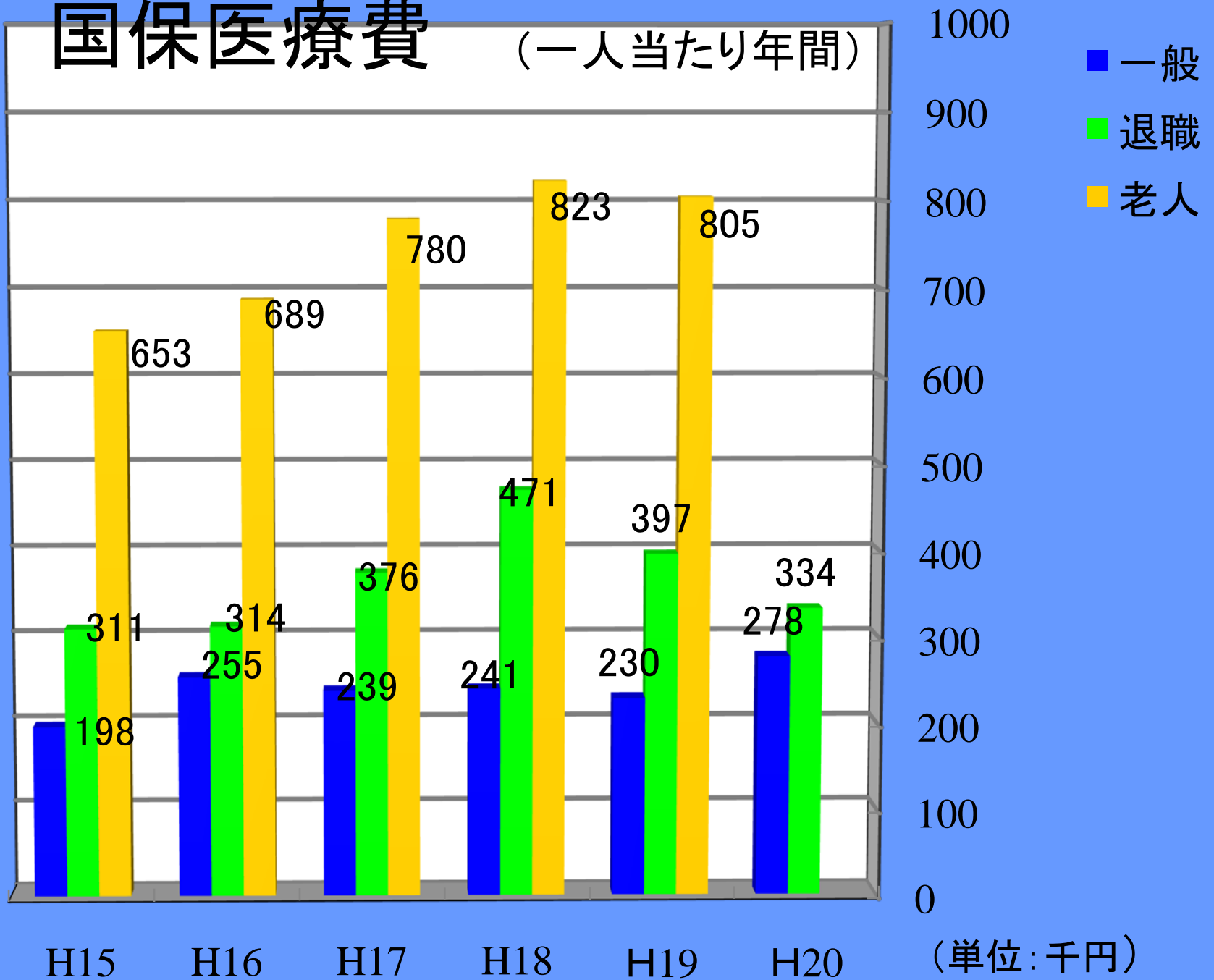
梶原町の健診対象者:
18以上社保本人以外



町国保の特定健診受診率(推計) H18 53.9% H19 63.3%

目指すのは、**80%**

国保医療費 (一人当たり年間)



(単位: 千円)

栲原の健康の現状

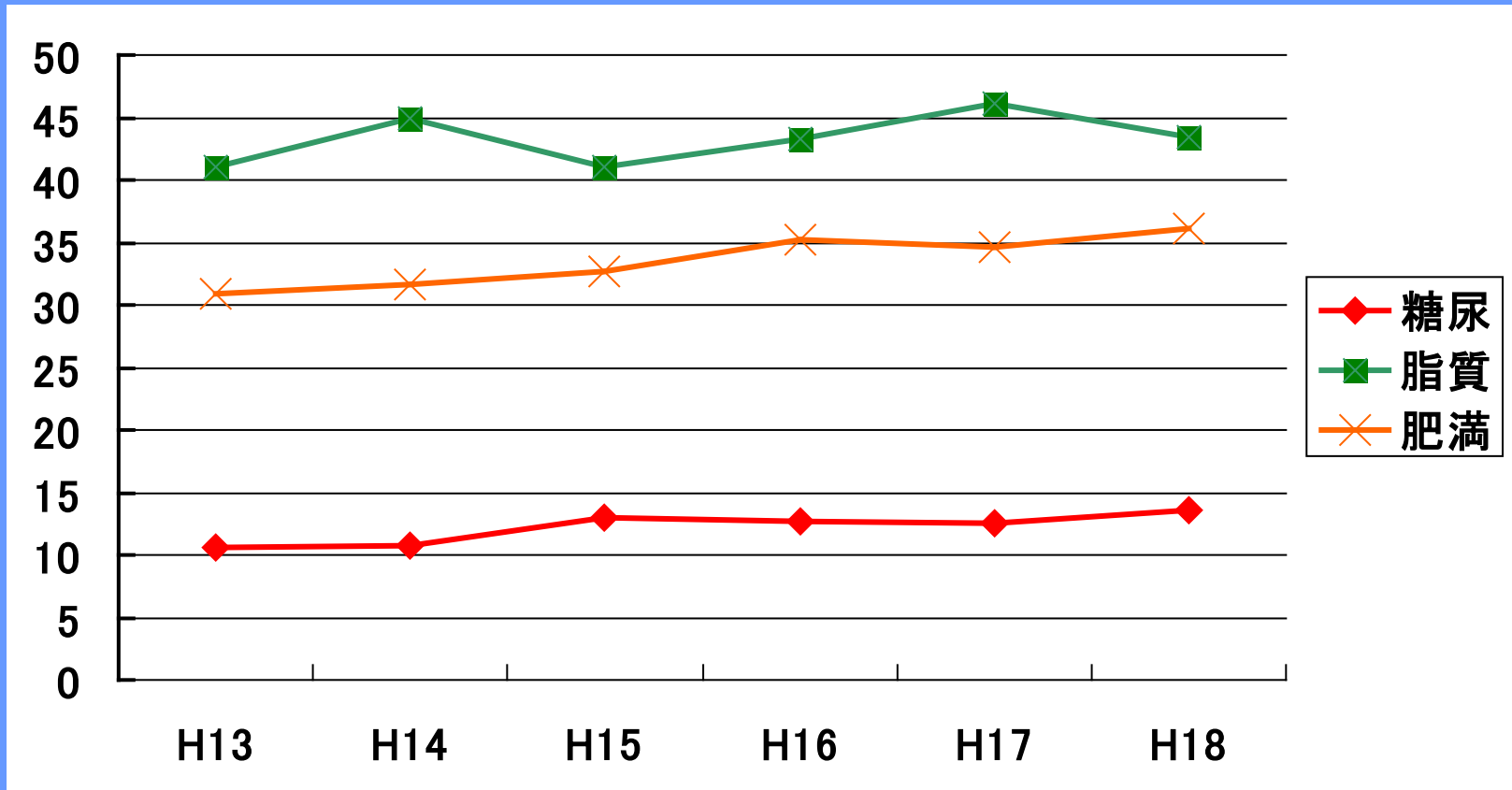
☆全国と比較した指標はよい。

- ・全死亡は全国より低位：標準化死亡比85、約1歳長寿
- ・メタボ関連死亡は全国と比較すると低位：心疾患標準化死亡比65（平成17年）

☆しかし、経年変化で見ると、悪化の一途

- ・国保レセプトで糖尿病患者の増加、心筋梗塞死亡の増加、糖尿病及び腎性腎臓病による人口透析の増加
- ・健診受診者の肥満者の割合が3割で県より高い。
- ・運動している人の割合が県より低い。
- ・野菜を食べる割合が年齢が下がるごとに低下

健診における生活習慣病予備軍の発生率の推移



梶原の原因別死亡数の推移

原因	‘74-83の 10年	‘95-04の 10年
脳出血	84人	32人
脳梗塞	47人	63人
急性心筋梗 塞	22人	40人

疾病構造の変化←生活習慣の変化(欧米化・手軽さ・安易化・車社会)

梶原町のこれまでの取組み①

国保生活習慣改善モデル事業

(平成13年度～平成16年度)

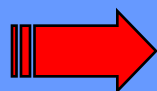
保健事業の本格的な評価

**健康長寿な町の要因が
明確になった。**

- ・よい自然環境
- ・健康な食事と生活習慣
- ・人と人のつながりある。
- ・これまでの保健医療活動

健康課題も明確になった。

- ・脳出血が多い。
- ・働き盛りの男性が早世
- ・人と人のつながりが薄れている。
- ・優れた生活習慣が若い世代に引き継がれていない。



健康長寿の里づくり計画

健康長寿の里づくり計画

(健康日本21構原版)

ライフステージ毎に

子どもの健康を
育むまちづくり

働き盛りの人が
意欲的に生活で
きるまちづくり

高齢者がいき
いきと暮らせる
町づくり

具体的な目標を示す

健康長寿の里づくり計画

～健康長寿の里 精原を引き継ぐために～



田の木
杉



引き継ぎたい!!

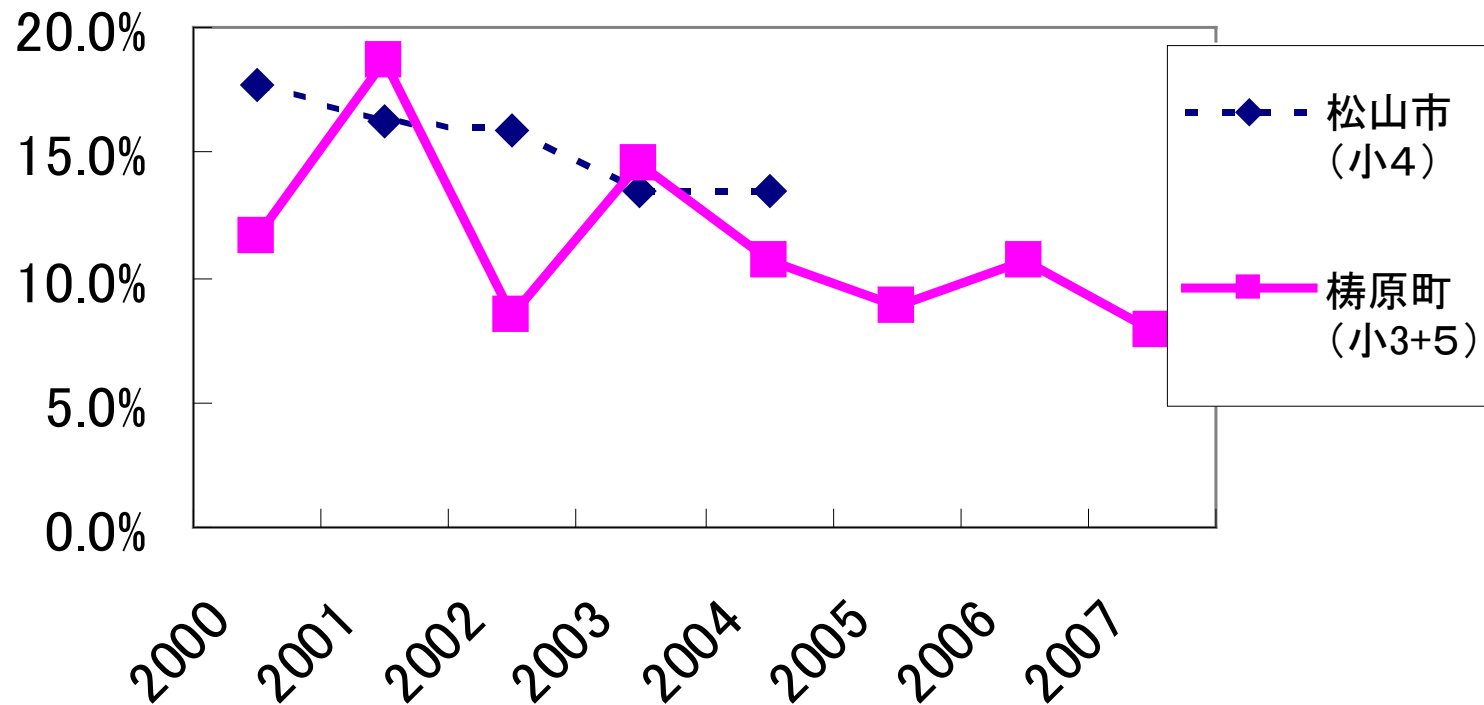
- 精原の健康を育んでくれた きれいな水と空気
- 精原の伝統的食生活や、山や畑の仕事で身体を動かす、自然とともに早寝・早起きをしてきた生活習慣
- 精原の茶堂に代表される おもてなしの心・歴史で分る、他者を守る心
- 充実した保健福祉医療体制の積極的活用



高知県精原町

小児生活習慣病予防健診

肥満をもつ児の割合の推移～小学生～(肥満度20%以上)



梶原町のこれまでの取り組み②

健康長寿の里づくりを実現するため

増加する「メタボリック症候群」の生活習慣の改善を目指し、生涯現役社会を実現するもの。

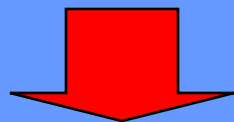
国保ヘルスアップモデル事業 平成16年から平成18年度

【目的】

1. 糖尿病に対する効果的な個別健康支援プログラムの開発と職員の資質の向上
2. 糖尿病罹患、予備軍にある者の進行を防ぐこと
3. 事業対象者を核とした生活習慣病予防活動を地域単位で展開し、住民に拡がること。

86人の国保被保険者を対象に個別、集団指導を行い、

- ・モデル的なプログラムが開発でき、職員の資質が向上した。
- ・生活習慣(行動や意識)の改善、体重や血液検査値の改善が見られた。
- ・自主的に運動しようとするグループが現れた。



- ・ポイントを押さえたプログラムで安価で効率的、そして効果的な保健指導ができるようになった。
- ・全地区(6地区)で自主的な運動グループが生まれ、健診で発見された生活習慣病予備軍の継続的実践の受け皿になってきた。

国民健康保険制度と地域保健

- 被用者保険で健康を害した人たちが退職して国保に加入
- 中小企業ばかりの栲原では、事業所の健康管理体制が整っていない。栲原病院が産業医、主治医
- 被用者、被扶養者も生活の場は地域

市町村は地域保健で、全町民の保健事業を実施

課題：確かな数値で、保健指導、評価ができない。

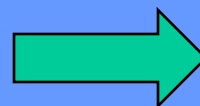
これまで、国保で

- 保健福祉支援センターの設置
- 保健福祉支援センターの運営
- 国保栲原病院の充実
- 先進的な事業(モデル事業)の取組み

栲原病院は保険があっても「医療なし」という不公平を是正する目的でつくられている。=皆保険制度を支える国保制度



国保被保険者だけではなく
地域へ還元



国保の健全化